

硫黄島の火山活動解説資料(平成26年12月)

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。GNSS連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起の傾向、9月頃から停滞の傾向がみられていましたが、12月上旬頃から再び隆起の傾向です。その他の観測データに特段の異常は認められません。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

平成19年12月1日に火口周辺警報(火口周辺危険)を発表しました。また、2012年4月27日以降の火山活動に伴い、2012年4月29日に火山現象に関する海上警報を発表しました。

活動概況

・噴気、地熱、噴出物等表面現象の状況(図1、図3)

【天山付近の状況】(図1)

硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると、16日08時20分頃天山付近で数秒間、約10~15mの黒茶色の噴出を確認し、現地では湿った泥のようなものが散らばっており、靴に付着する程度でしたが、臭いや音は確認されませんでした。一時的に噴出の勢いが強まり、泥を噴出したものと推定されます。黒茶色の噴出現象が確認された時間帯の地震活動には特段の変化は認められませんでした。

【ミリオンダラーホール(旧噴火口)の状況】(図1)

ミリオンダラーホール(旧噴火口)では、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生していますが、海上自衛隊からの情報提供によると今期間の噴火の発生はありません。

【遠望カメラによる状況】(図3)

阿蘇台東遠望カメラ(阿蘇台陥没孔の東北東約900m)による観測では、島西部の阿蘇台陥没孔と井戸ヶ浜からの噴気は認められません。

・地震活動の状況(図4、図5)

今期間、火山性地震はやや少ない状態で経過しています。

調和・単色型の火山性微動が13回発生し、継続時間は最長で約2分(31日21時17分頃)でした。これらの火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに異常は認められません。

・地殻変動の状況(図6~8)

GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起の傾向、9月頃から停滞の傾向がみられていましたが、12月上旬頃から再び隆起の傾向です。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成27年1月分)は平成27年2月9日に発表する予定です。

この資料は、国土地理院及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『2万5千分1地形図』『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。

過去の火山活動との比較（図 1）

硫黄島ではこれまでも 1981-1984 年（防災科学技術研究所等の水準測量と三角測量による）や 2001-2002 年に最大 1 m を超える隆起など顕著な地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の 1982 年と 2001 年には小規模な噴火が発生しています。

一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された 1976 年以降で見ても、1982 年 11 月の阿蘇台陥没孔や 2001 年 9 月の翁浜沖で発生した噴火、2012 年 4 月 29 日から 30 日の噴火と推定される事象以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。

明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原にかけての領域に集中しています。

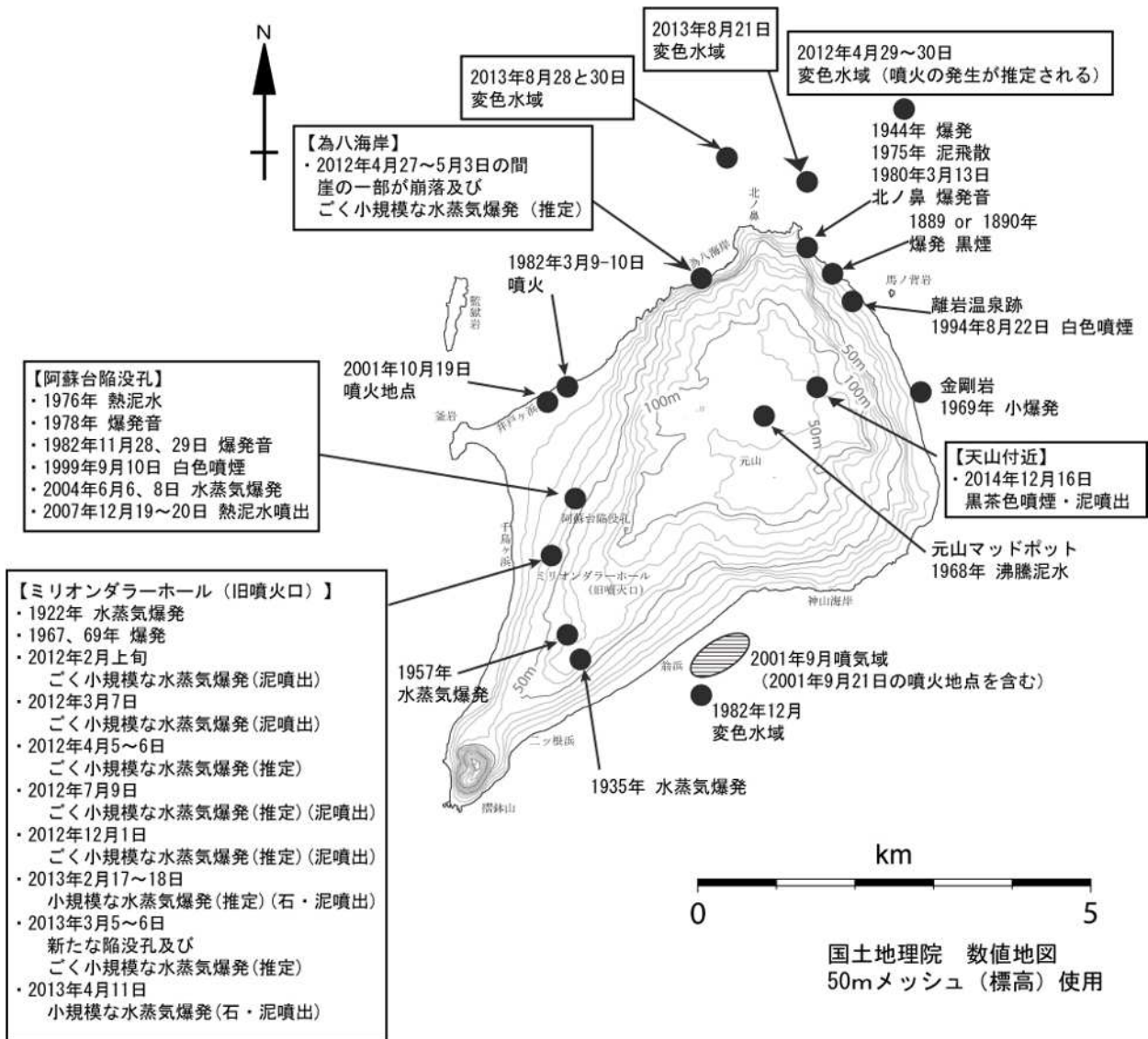
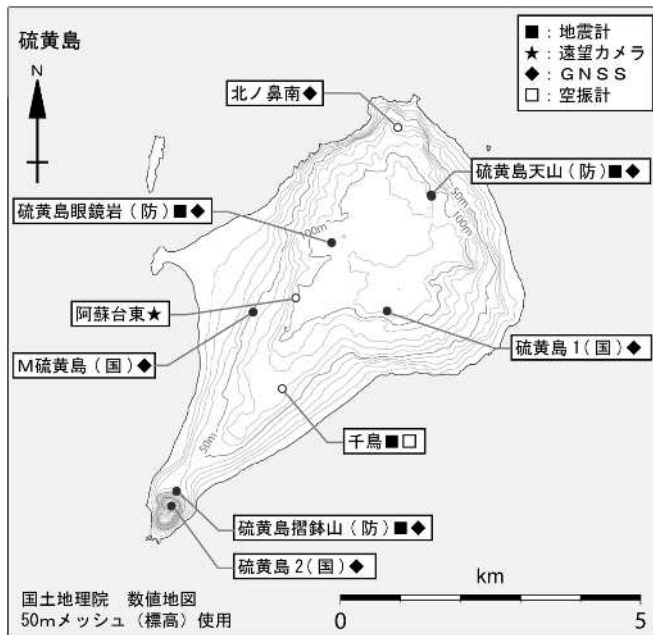


図 1 硫黄島 過去に噴火等が確認された地点、及びその後の状況

「鶴川元雄・藤田英輔・小林哲夫，2002，硫黄島の最近の火山活動と 2001 年噴火，月刊地球，号外 39 号，157-164。」を基に作成し、2004 年以降の事象について追記した。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所

図2 硫黄島 観測点配置図

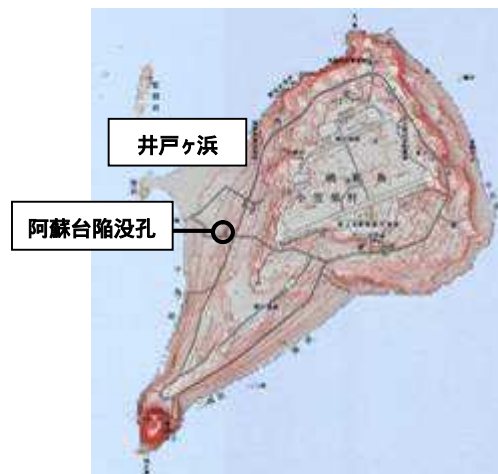


図3 硫黄島 海岸付近の噴気の状態、阿蘇台東遠望カメラによる
 右上図: 遠望観測対象地点 地形図は、日本活火山総覧(第4版)から引用。
 左下図: 阿蘇台陥没孔^{あそだいかんぼつこう}の噴気の状態(12月25日撮影)
 右下図: 井戸ヶ浜の状況(12月25日撮影)

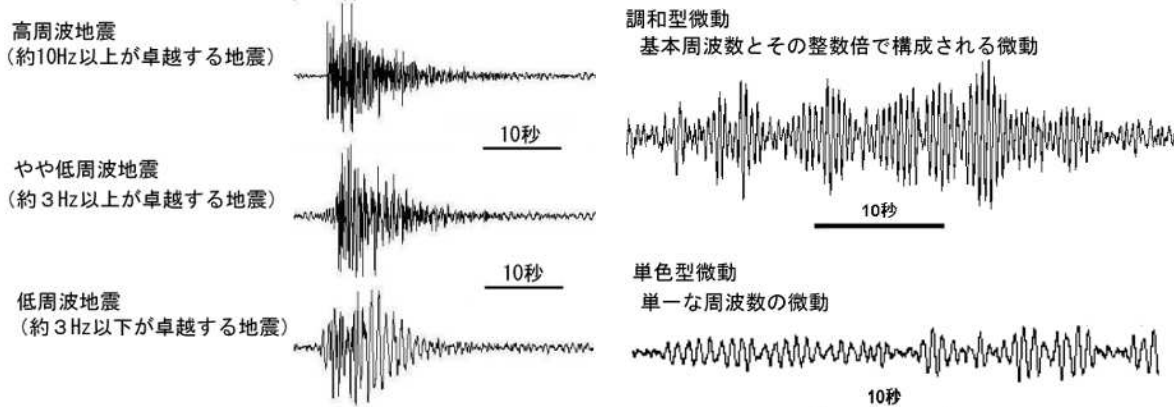


図4 硫黄島で見られる主な火山性地震、微動(調和型、単色型)の特徴と波形例

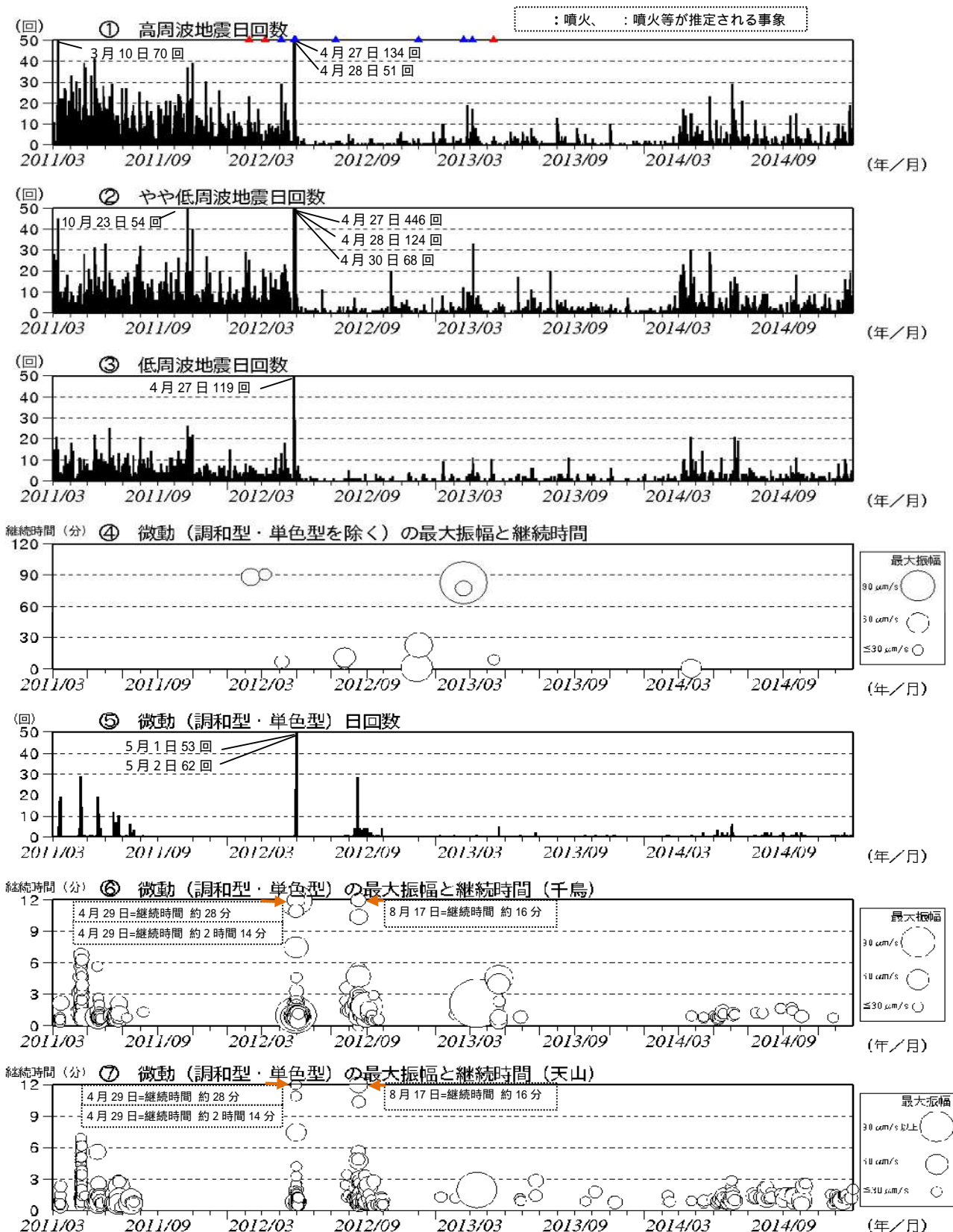


図5 硫黄島 火山活動経過図(2011年3月8日~2014年12月31日)

震動観測: 2011年3月8日運用開始

【計数基準】・2012年1月1日以降: 千鳥あるいは(防)天山で30 μ m/s以上、S-P時間2.0秒以内
 2011年3月8日~12月31日: 千鳥30 μ m/s以上、S-P時間2.0秒以内、あるいは
 (防)天山20 μ m/s以上、S-P時間2.0秒以内
 (防): 独立行政法人防災科学技術研究所

- ~ 日別地震回数
- 火山性微動の最大振幅と継続時間(調和型・単色型を除く)
- ~ 調和型・単色型微動の日回数、及び最大振幅と継続時間

硫黄島周辺 GNSS連続観測基線図

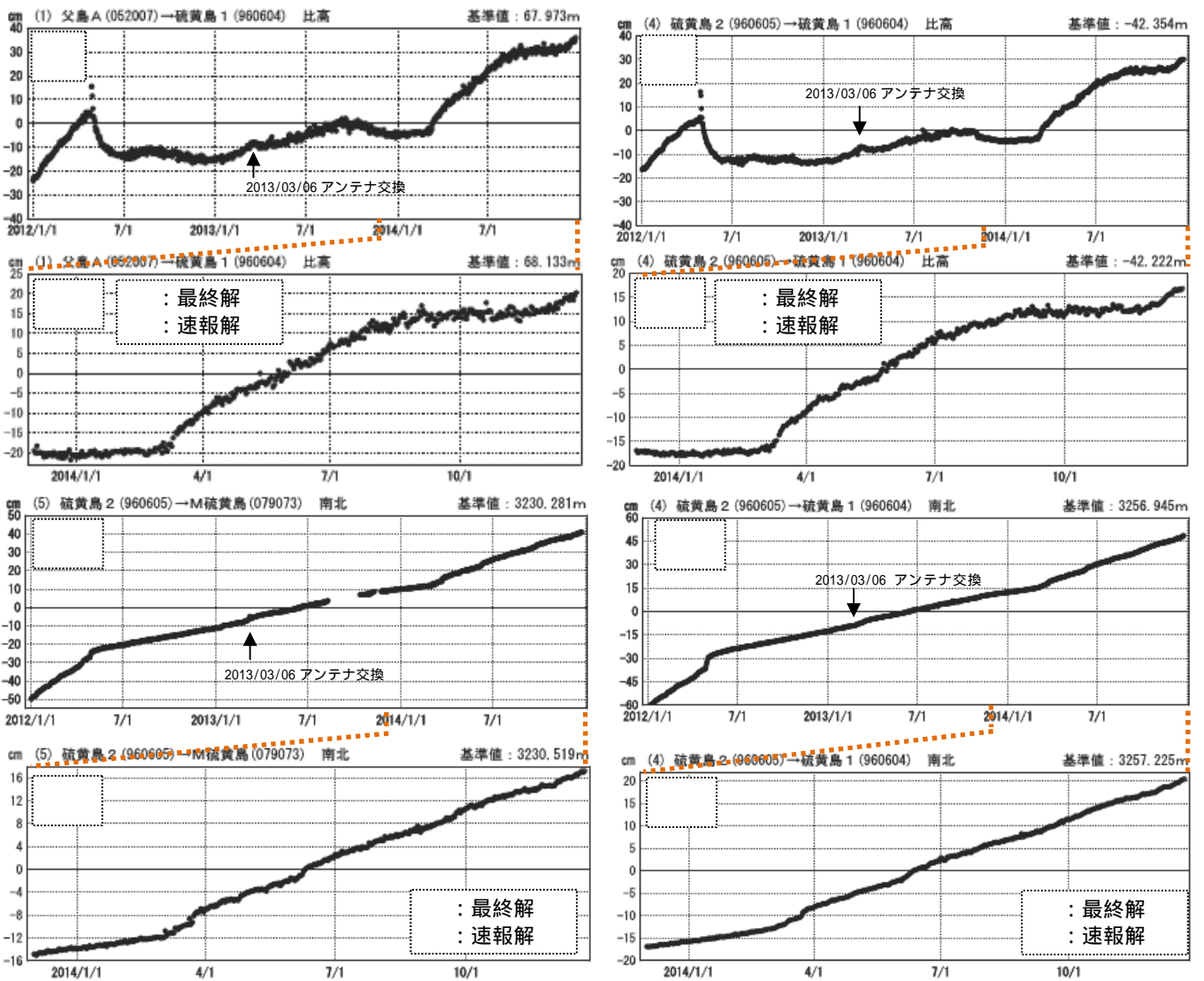
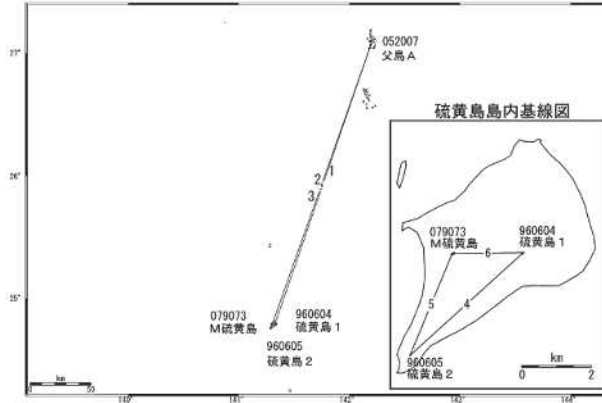


図6 硫黄島 国土地理院による地殻変動観測結果²⁾

- (2012年1月1日～2014年12月22日、 2013年12月1日～2014年12月22日)
- のグラフ: 父島に対する硫黄島1の比高の変化
- のグラフ: 硫黄島2(島西部の摺鉢山付近)に対する硫黄島1(島北部の元山地域)の比高の変化
- のグラフ: 硫黄島2に対するM硫黄島(島西部の阿蘇台陥没孔付近)の南北の変化
- のグラフ: 硫黄島2に対する硫黄島1の南北の変化

2) 最終解は国際的なGNSS観測機関(IGS)が計算したGNSS衛星の最終の軌道情報(精密暦)で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。

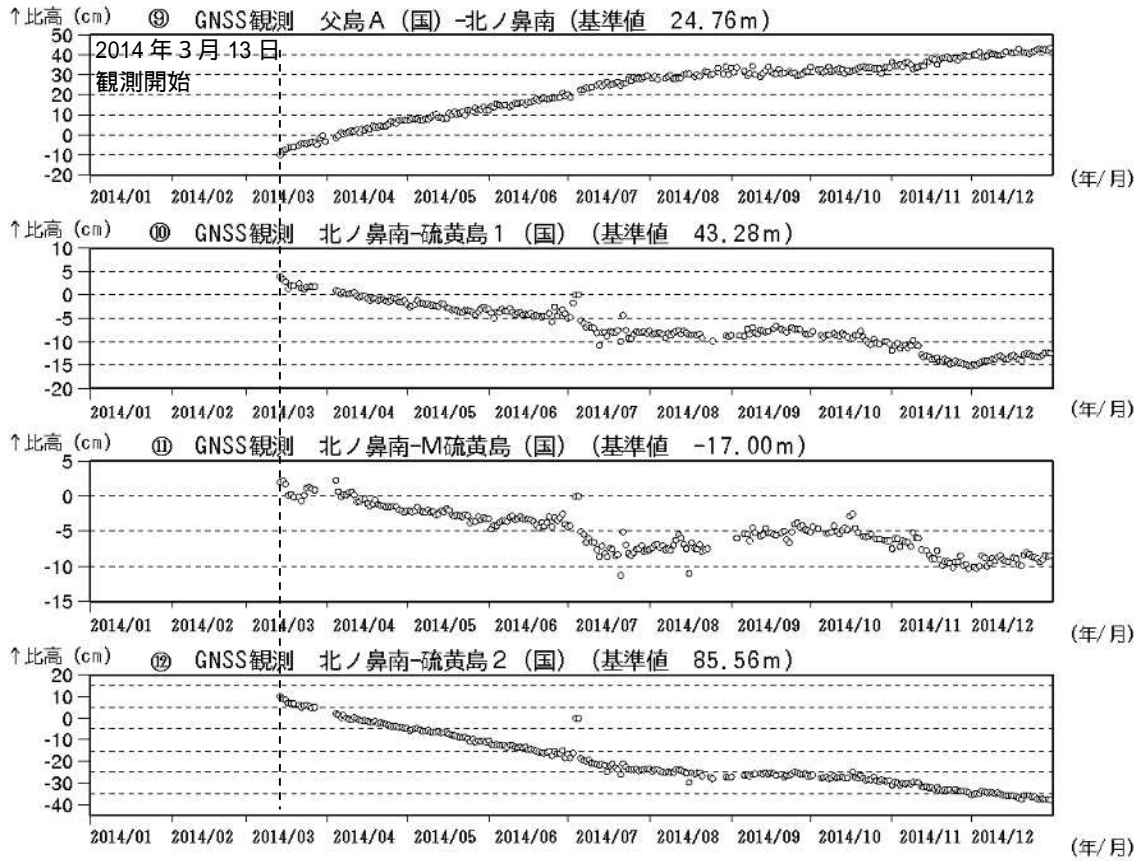


図 7 硫黄島 GNSS¹⁾観測結果（2014 年 1 月～12 月）（国）：国土地理院

- ・ 基線 ~ は図 8 の ~ に対応します。いずれの図も、左の観測点に対する右の観測点の比高（高度の差）の変化を表しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
- ・ 北ノ鼻南観測点は 2014 年 3 月 13 日から観測を開始しました。
- ・ 島の隆起傾向が継続していましたが、9 月頃から停滞の傾向がみられていましたが、12 月上旬頃から再び隆起の傾向です。なお、北ノ鼻南観測点の隆起量が最も大きくなっています。

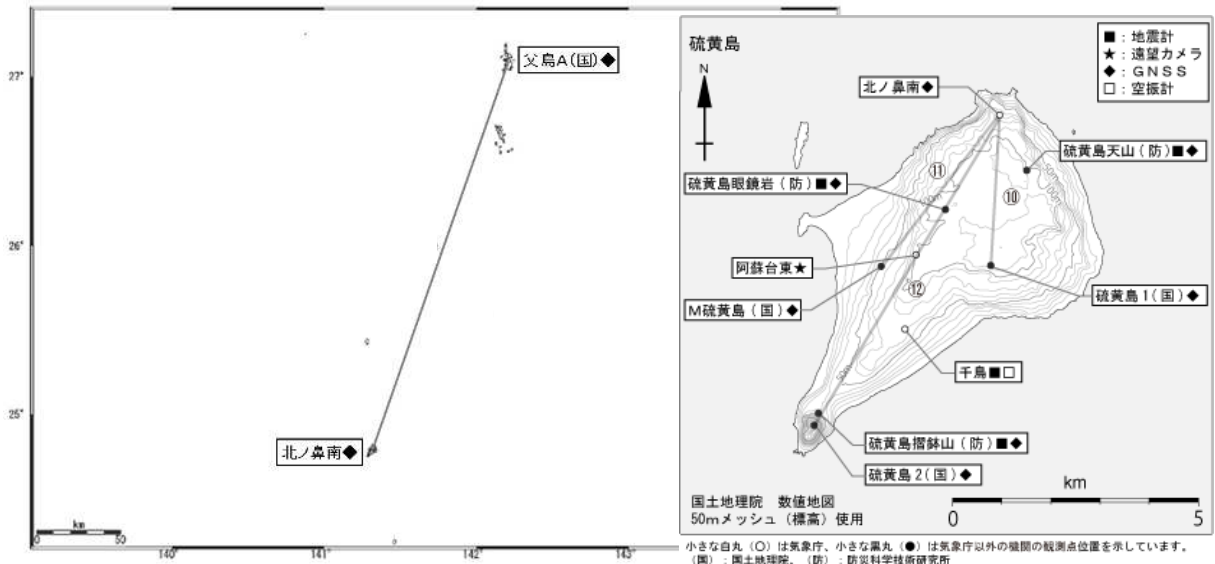


図 8 硫黄島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院
 GNSS 基線 ~ は図 7 の ~ に対応しています。